

# 新潟県に災害をもたらした主な気象事例

## 平成25（2013）年7月29日から8月1日にかけての大雨

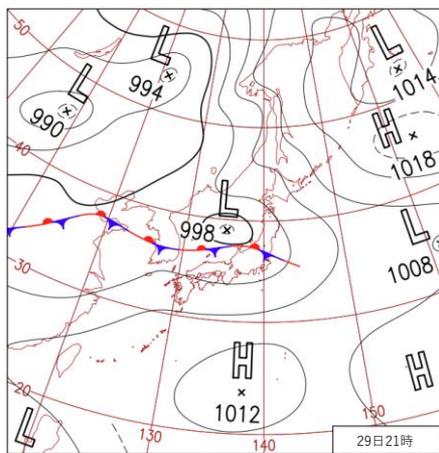
梅雨前線に向かって湿った空気が流入し中越、下越を中心に大雨  
～長岡市を中心に土砂災害や浸水害が発生～

### 【概要】

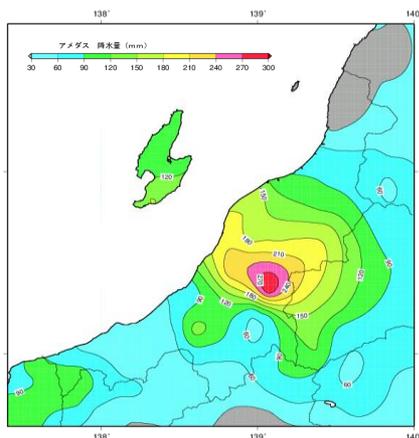
平成25（2013）年7月29日から8月1日にかけて梅雨前線が朝鮮半島から日本海をとって北陸地方に達し、この前線に向かって湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。新潟県では中越、下越を中心に断続的に激しい雨が降り、特に7月29日夜遅くから30日未明と7月31日夜遅くから8月1日未明の2回、降水のピークがあった。このうち、7月30日未明には長岡市長岡東部付近と長岡市長岡西部付近で2時30分までの1時間に約100ミリの猛烈な雨を解析したほか、魚沼市入広瀬では7月30日2時11分までの1時間に73.0ミリを観測した。7月29日1時から8月1日24時までの総降水量は魚沼市入広瀬で296.5ミリ、長岡市寺泊で199.0ミリなどとなった。

この大雨により、長岡市寺泊地域では土砂災害が発生し1名の死者が出たほか、乙吉川で氾濫及び土石流が発生し4名が負傷（重症1名、軽症3名）、住家被害も多く発生した。

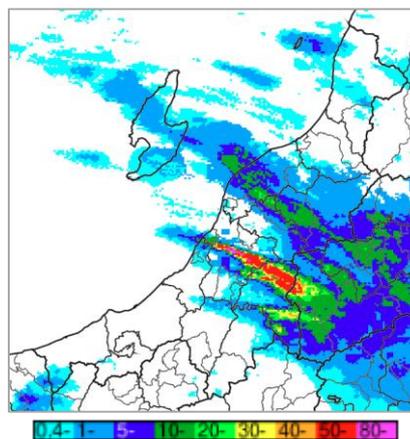
（被害状況：新潟県気象速報、平成26年度砂防学会研究発表、長岡市危機管理防災本部より）



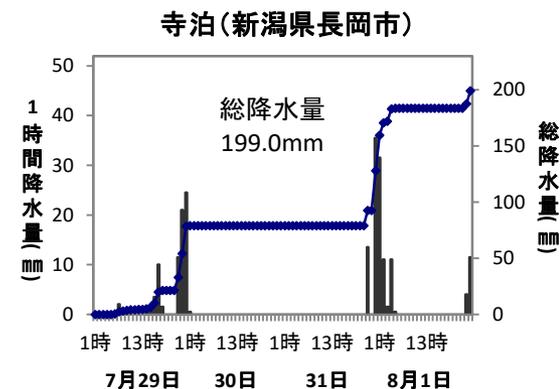
地上天気図  
平成25年7月29日21時



平成25年7月29日から8月1日  
にかけての積算降水量分布図



平成25年7月30日2時30分の  
前1時間降水量（解析雨量）



長岡市寺泊の降水量の推移